

2023年10月30日

駆け足で移り変わる季節。10月1日、真夏の日差しの中でシカゴ商工会行事に参加。翌週末10月8日は一転して真冬の寒さの中でシカゴ・マラソンを応援、世界新記録樹立を目撃。10月31日のハロウィン控え、近所の装いも楽しく、拙宅でも多くの御菓子をを用意した。



ハロウィンを迎える近所の装い

1 「食の外交官」公邸料理人

外交も人の営み。一緒に食事をすることは人間関係の基本。信頼関係を深める上で、食事と酒は貴重な機会を提供する。公邸を舞台とした外交活動。「食の外交官」である公邸料理人が、お客様の嗜好や場に応じたメニュー構成を考案・工夫して、慣れない外国での食材調達から行う。

日本食や日本酒を外国に紹介し広めることも、日本文化紹介・日系企業支援の観点から、総領事館の役割の一つ。日本各地の風土を反映した米と水から造られる「国酒」を知ってもらうことは、日本各地の歴史と伝統を知ってもらうことに繋がる。日本酒は、和食のみならず、フレンチ、イタリアンなど、幅広い料理に合う。2013年の和食に続き、来年、伝統的な酒造り技術がユネスコ無形文化遺産に登録されることを期待して「乾杯！」。



メニューの一例

「酒グルメ」公邸イベントの舞台裏

2 大カンザスシティ日本祭に見る日米友好親善の原動力

10月7日、第25回目の大カンザスシティ日本祭に参加。地元大学の大ホールから小教室で、日本から参加した歌舞伎、デンバーから駆け付けた和太鼓、ポップカルチャーまで、日米の多彩な人たちが、日本文化の様々な側面を紹介し、楽しんでいる様は圧巻だ。

当時の在カンザス総領事館が祭りの立ち上げに関与した。しかし、2004年末に総領事館が閉鎖した後、日本祭の発展とカンザス・日本間の友好親善関係の原動力となってきたのは、歴代の中部米国日米協会の方々や名誉領事だ。

空港へ向かう帰路、パナソニック・エナジーのリチウムイオン電池工場建設地を視察。百聞は一見にしかず。ケリー知事が「地域の様相を一変させる」と形容していた、その存在感と規模感に圧倒される。米国における企業市民として、ESG（環境・社会・統治）活動の一環で、人材育成のための教育支援にも取り組むという。経済関係と人的・文化関係の好循環が回り始め、長期的なパートナーシップに発展すると期待できる。



大カンザスシティ日本祭

パナソニック・エナジー工場建設現場

3 ウィスコンシン州都マディソン

2つの湖に挟まれた地峡の上に形成された大学都市マディソン。10月20日、トニー・イーヴァス知事（民主党）との会談のために訪問した。知事は学校長や教育長官の経歴を持つ。物腰柔らかく、洞察力の深い実地的な人物とお見受けした。知事からは、州内の日系企業の経済活動・産学連携・企業文化・地域貢献に対する高い評価が示され、当方からは、日本語教育の教育的効果と（日系企業への人材供給を支える観点から）地域経済にとっての意義を訴えた。

この機会を利用して、ローズ・コンウェイ・マディソン市長との会談、産学連

携関係者や日本研究・日本語教育関係者との意見交換も日程に加えた。

ウィスコンシン州と言え、2024年大統領選挙プロセスの一環で、7月15日から18日にかけて共和党全国大会がミルウォーキーで開催される。通常、党指導者や若手注目株による演説が行われた後で、党候補に正式に指名される者による受諾演説が行われる。夏の最大の政治イベントに全米と世界の注目が集まる。



イーヴァス知事と

マディソン市

4 アーリントンハイツ村長と警察署長を往訪

シカゴ北西部郊外のアーリントンハイツには、1000人近い在留邦人が居住し、日本人学校双葉会と日系企業27社と日系スーパーが所在する。10月23日、ハイエス村長とペコラ警察署長を往訪した。村の治安状況や留意点などを確認するとともに、在留邦人と日本人学校と日系企業が、安心・安全な環境の中で円滑に日常生活や学業や経済活動を営めるよう、引き続き格段の支援と配慮を要請した。

村長と署長からは、村内の犯罪件数やヘイトクライム件数を挙げて、「アーリントンハイツは非常に安全な地域」としつつも、安心してスーパーの駐車場に車の鍵をかけずに買い物に行かないように、外から見える車内に荷物を置かないように、との助言があった。

最後に、今後とも全力を尽くすとの力強い確約とともに、在留邦人・日本人学校・日系企業が、よき村民として地域コミュニティに溶け込んで貢献していることについて、感謝と評価の言葉を頂いた。



村長・警察署長と



アーリントンハイツ警察署